

2023 日図協第 95 号

2023 年 6 月 29 日

日本私立短期大学協会

会長 関口 修 様

公益社団法人 日本図書館協会

理事長 植松 貞夫

分類委員会委員長 中井 万知子

「図書館の分類に関する調査（2023）」の実施について（お願い）

日頃より、本法人の諸活動につきまして、格別のご高配をいただき厚く御礼申し上げます。
このたび、分類委員会では、「図書館の分類に関する調査（2023）」を実施することとなりました。

つきましては、貴協会会員である私立短期大学様宛に本調査の周知および回答について、協力を依頼いただきたく存じます。

どうぞ、諸般ご賢察の上、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 調査名 : 図書館の分類に関する調査（2023）
2. 実施期間 : 2023 年 7 月 3 日（月）から 2023 年 8 月 4 日（金）まで
3. 調査方法 : Google フォームによる回答

<https://forms.gle/jxrcegYzxxMXJYPg9>

※調査の詳細は別紙『「図書館の分類に関する調査（2023）」の実施について』参照

※Google フォームが使用不可の場合は Excel ファイルによる回答も可

※「図書館の分類に関する調査（2023）」ウェブサイト

<http://www.jla.or.jp/committees/bunrui/tabid/1023/Default.aspx>

4. 公表方法 : 『図書館雑誌』へ記事の掲載予定

以上

問い合わせ先 :

分類委員会 分類調査担当

bunrui@jla.or.jp

2023 日図協第 96 号

2023 年 6 月 26 日

私立短期大学 各位

公益社団法人 日本図書館協会
理事長 植松 貞夫
分類委員会委員長 中井 万知子

「図書館の分類に関する調査（2023）」の実施について（お願い）

日頃より、本法人の諸活動につきまして、格別のご高配をいただき厚く御礼申し上げます。
このたび、分類委員会では、「図書館の分類に関する調査（2023）」を実施することとなりました。

つきましては、貴学の図書館様に本調査の回答にご協力いただきたく存じます。
どうぞ、諸般ご賢察の上、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 調査名 : 図書館の分類に関する調査（2023）
2. 実施期間 : 2023 年 7 月 3 日（月）から 2023 年 8 月 4 日（金）まで
3. 調査方法 : Google フォームによる回答
<https://forms.gle/jxrcegYzxxMXJYPg9>
※調査の詳細は別紙『「図書館の分類に関する調査（2023）」の実施について』参照
※Google フォームが使用不可の場合は Excel ファイルによる回答も可
※「図書館の分類に関する調査（2023）」ウェブサイト
<http://www.jla.or.jp/committees/bunrui/tabid/1023/Default.aspx>
4. 公表方法 : 『図書館雑誌』へ記事の掲載予定

以上

問い合わせ先 :

分類委員会 分類調査担当

bunrui@jla.or.jp

「図書館の分類に関する調査（2023）」の実施について

日本図書館協会（JLA）分類委員会は、日本十進分類法（NDC）の維持管理のため、分類法に関する調査活動を行っています。2008年4月には、2007年度『日本の図書館』のミニ付帯調査として「図書の種類に関する調査」を実施し、調査結果を『図書館雑誌』（vol. 104, no. 3, 2010. 3, p166-169）に公表しました。その後の状況を把握するため、2023年7月に全国の公共図書館、大学図書館等を対象に、以下の要領でアンケート調査を実施します。

1 調査の名称

図書館の分類に関する調査（2023）

2 調査の目的

- ・ 日本の図書館における分類法の適用、活用方法等の現況を把握し、情報を共有する。
- ・ NDCの維持管理並びに改訂の検討にあたっての参考情報とする。

3 調査対象

2008年の調査との継続性を考慮し、『日本の図書館』の統計による公共図書館、大学図書館等とします。中央館、分館、地域館等、それぞれの館が調査対象です。

参考： 2008年の調査館数は、公共図書館（私立含む）3,126館、
大学図書館（短大、高専、大学校、大学共同利用機関含む）1,660館

4 調査方法

ウェブアンケートを基本とし、Googleフォームによる調査票を用います。

下記、アドレスより調査票へアクセスして回答をお願いいたします。

調査票（Googleフォーム）：<https://forms.gle/jxrcegYzxxMXJYPg9>

※Googleフォームでの回答が難しい場合は、Excelファイルでの回答も可能です。

調査票を下記ウェブサイトからダウンロードし、メールでご送付ください。

○「図書館の分類に関する調査（2023）」ウェブサイト

<http://www.jla.or.jp/committees/bunrui/tabid/1023/Default.aspx>

○送付先：bunruichosa@gmail.com

5 調査依頼等

調査対象館への回答依頼は、JLA公共図書館部会、大学図書館部会等の協力を得て、部会等のメールによる連絡ルートを通じて発送することを基本とします。そのほか、『図書館雑誌』、JLAメールマガジン等により周知を図り、調査へのご協力を呼びかけます。

また、JLAウェブサイトの分類委員会ページに、分類調査用ページ（上記4参照）を開設し、関係資料を掲載します。

6 回答期間

2023年7月3日（月）～8月4日（金）

7 調査結果の公表

『図書館雑誌』の記事として掲載予定です。

「図書の分類に関する調査」結果報告

—平成19年度「日本の図書館」ミニ付帯調査—

JLA分類委員会

はじめに

日本図書館協会（以下、JLA）分類委員会は、分類業務に関する図書館界の現況を把握するため、2008年4月、「図書の分類に関する調査」を行った。本稿は、その調査結果報告である。

調査にご協力いただきました回答館の方々に厚くお礼を申し上げます。

調査の概要

調査対象館は、全国の公共図書館（都道府県立，市区町村立，広域事務組合立，私立の図書館）と大学図書館（大学，短期大学，高等専門学校，大学校，大学共同利用機関の図書館）である。調査の単位は分館単位とした。

調査項目は、分類に関するものを中心とし、件名とOPACについても若干採りあげた。また、設問の最後に「NDCに対する意見」の項目を自由記入欄として設けた。分類記号の桁数，分類重出，分類規程，図書記号，別置記号の設問は、NDCの使用館を対象とした。

調査対象図書は、基本的に新規受入の一般図書に限定し、既存の蔵書や児童書，地域行政資料等は除いた。

調査は、JLAが毎年行っている「日本の図書館」調査（本調査）の付帯調査として実施した。調査基準日は、2008年4月1日現在である。

調査館数（調査票配布数）は、公共図書館3,126館，大学図書館1,660館，合計4,786館であり，調査票回収数は公共2,974館（回収率95.1%），大学1,479館（同89.1%），合計4,453館（同93.0%）であった。

集計数値は、基本的に事務局の集計データによる。

質問と回答

・調査票の設問，回答肢等の表記を一部簡略化した。

・質問項目ごとの無回答館数は省略した。

【1】新規受入の一般図書の分類作業（分類記号の付与）について

(1) 分類作業は自館で行っているか

- 1 自館で行っている（業者等に委託している場合もこちら）
- 2 自館で行っていない（本館・中央館など整理を担当する館が一括して行っている場合はこちら）

回答肢	公共		大学	
1	2523	84.8%	1335	90.3%
2	451	15.2%	143	9.7%

(2) 分類作業を自館で行っている館において、主に誰が分類作業を行っているか（複数回答可）

- 1 自館内の職員（臨時・委託・派遣職員等を含む）が行っている
- 2 民間MARC作成機関に委託
- 3 外部の整理受託業者に委託
- 4 その他（ ）

回答肢	公共		大学	
1	1803	71.5%	1189	89.1%
2	1657	65.7%	12	0.9%
3	153	6.1%	105	7.9%
4	53	2.1%	11	0.8%

【2】自館内の職員が分類作業を行う場合について

(1) 外部機関作成の書誌データベースや目録等の分類記号を参考にしているか

- 1 している
- 2 していない

回答肢	公共		大学	
1	1877	79.1%	1256	96.2%
2	497	20.9%	50	3.8%

参考にしているデータベース名等（複数回答可）

- a NDL-OPAC

- b NACSIS-CAT または NACSIS Webcat
 c その他 ()

回答肢	公 共		大 学	
a	930	49.5%	319	25.4%
b	298	15.9%	1212	96.5%
c	1408	75.0%	159	12.7%

c (その他) : 民間 MARC, 県立図書館データベース, NDL 総合目録, LC, OCLC 等

(2) 参考にしている分類記号に修正・加工を行っているか

- 1 行っている 2 行っていない (そのまま取り込む)

回答肢	公 共		大 学	
1	1715	90.2%	1093	87.5%
2	186	9.8%	156	12.5%

どのような修正・加工を行っているか (複数回答可)

- a 自館で使用している分類表の版に合わせる
 b 桁数を調整する
 c その他 ()

回答肢	公 共		大 学	
a	988	57.6%	798	73.0%
b	1340	78.1%	607	55.5%
c	238	13.9%	209	19.1%

c (その他) : 自館の基準, 実績, 分類傾向に合わせる等

【3】新規受入の一般図書に使用している分類表

* 和書・洋書の区分を設けていない館は, 和書の部分で回答

(1) 和書

- 1 NDC 9 版 2 NDC 8 版 3 NDC 7 版
 4 NDLC 5 その他 ()

回答肢	公 共		大 学	
1	1925	76.4%	789	59.7%
2	603	23.9%	345	26.1%
3	15	0.6%	90	6.8%
4	0	0.0%	6	0.5%
5	112	4.4%	245	18.5%

5 (その他) : NDC 6 版, 5 版, DDC, UDC, 独自分類表等

(2) 洋書

- 1 NDC 9 版 2 NDC 8 版 3 NDC 7 版
 4 DDC (版) 5 その他 ()

回答肢	公 共		大 学	
1	150	59.8%	371	55.0%
2	55	21.9%	143	21.2%
3	0	0.0%	39	5.8%
4	27	10.8%	53	7.9%
5	48	19.1%	143	21.2%

4 (DDC)

公共 : 22 版 27 館

大学 : 22 版 12 館, 21 版 19 館, 20 版 8 館, 19 版 5 館, 18 版 2 館, 15 版 5 館, 13 版 1 館

5 (その他) : NDC 6 版, LCC, UDC, NDLC, 独自分類表等

【3-1】NDC の使用桁数について

* 和書・洋書の区分を設けていない館は, 和書の部分で回答

(1) 和書

1 書架分類に桁数の制限を設けているか (桁数)

- a 設けている (桁) b 設けていない

回答肢	公 共		大 学	
a	2250	90.7%	621	51.6%
b	232	9.3%	582	48.4%

公共 : 1 桁 15 館, 2 桁 19 館, 3 桁 919 館, 4 桁 902 館, 5 桁 272 館, 6 桁 90 館, 7 桁以上 12 館 (最大 7 桁)

大学 : 1 桁 3 館, 2 桁 10 館, 3 桁 62 館, 4 桁 77 館, 5 桁 130 館, 6 桁 201 館, 7 桁以上 122 館 (最大 10 桁)

2 書誌分類に桁数の制限を設けているか (桁数)

- a 設けている (桁) b 設けていない

回答肢	公 共		大 学	
a	811	38.7%	202	26.9%
b	1286	61.3%	549	73.1%

公共 : 1 桁 7 館, 2 桁 10 館, 3 桁 275 館, 4 桁 329 館, 5 桁 122 館, 6 桁 32 館, 7 桁以上 29 館 (最大 12 桁)

大学 : 1 桁 0 館, 2 桁 4 館, 3 桁 17 館, 4 桁 20 館, 5 桁 54 館, 6 桁 66 館, 7 桁以上 29 館 (最大 10 桁)

3 書誌分類を行っている場合, 分類重出を行っているか

- a 行っている (分類重出あり)
 b 行っていない (分類重出なし)

回答肢	公 共		大 学	
a	589	30.0%	160	21.0%
b	1375	70.0%	602	79.0%

(2) 洋書

1 書架分類に桁数の制限を設けているか(桁数)

a 設けている(桁) b 設けていない

回答肢	公 共		大 学	
	数	割合	数	割合
a	432	81.8%	281	51.7%
b	96	18.2%	263	48.3%

公共：1桁7館，2桁45館，3桁209館，4桁108館，
5桁14館，6桁11館，7桁以上11館(最大8桁)

大学：1桁2館，2桁5館，3桁28館，4桁31館，5
桁52館，6桁82館，7桁以上70館(最大10桁)

2 書誌分類に桁数の制限を設けているか(桁数)

a 設けている(桁) b 設けていない

回答肢	公 共		大 学	
	数	割合	数	割合
a	224	46.5%	118	32.0%
b	258	53.5%	251	68.0%

公共：1桁9館，2桁19館，3桁70館，4桁66館，5
桁36館，6桁3館，7桁以上12館(最大8桁)

大学：1桁1館，2桁2館，3桁10館，4桁12館，5
桁26館，6桁37館，7桁以上19館(最大10桁)

3 書誌分類を行っている場合、分類重出を行っているか

a 行っている(分類重出あり)

b 行っていない(分類重出なし)

回答肢	公 共		大 学	
	数	割合	数	割合
a	124	26.4%	79	20.6%
b	345	73.6%	304	79.4%

特定の桁数を使用している分野と桁数

日本史，日本地理，個人伝記，日本文学，専門分野等
で桁数を増やすなど(公共928館，大学133館)

【3-2】一般補助表の「形式区分」を付与する主題分類の桁数

1 類(1桁)のみに 2 綱(2桁)までに 3 目
(3桁)までに 4 4桁までに 5 5桁 6 全細
目に 7 とくに規定していない(必要に応じて付与)

回答肢	公 共		大 学	
	数	割合	数	割合
1	441	18.6%	24	2.0%
2	591	24.9%	54	4.6%
3	230	9.7%	140	11.9%
4	61	2.6%	117	9.9%
5	15	0.6%	31	2.6%
6	77	3.2%	17	1.4%
7	962	40.5%	796	67.5%

【3-3】分類規程を作成しているか

*「作成していない」場合で他館の規程を適用して
いるときは，()内に記入

1 自館で作成・維持している

2 作成していない()

回答肢	公 共		大 学	
	数	割合	数	割合
1	847	35.5%	350	29.5%
2	1537	64.5%	836	70.5%

NDL分類規程：公共85館，大学50館

【3-4】図書記号に何を使用しているか(複数回答可)

1 著者順 a 頭文字・カタカナ b 頭文字・ひらがな
c 頭文字・アルファベット d 日本著者記号表
e その他の記号()

2 受入順番号

3 その他の方法()

4 使用せず

回答肢	公 共		大 学	
	数	割合	数	割合
1	2380	82.9%	1042	76.1%
1 a	2252	78.4%	93	6.8%
1 b	84	2.9%	7	0.5%
1 c	287	10.0%	524	38.3%
1 d	30	1.0%	452	33.0%
1 e	19	0.7%	43	3.1%
2	118	4.1%	138	10.1%
3	256	8.9%	144	10.5%
4	117	4.1%	45	3.3%

1e(著者順・その他の記号)： Cutter・サンボーン著
者記号表等

3(その他の方法)：刊年順，書名順等

【3-5】別置記号を使用しているか(使用している別置記号)

*別置しているが記号は付していないときは「なし」と記入

1 レファレンスブック 2 大型本 3 児童書

4 ヤングアダルト図書 5 漫画・コミック 6 文
庫本 7 新書 8 点字・大活字本 9 地域行政資
料 10 郷土資料 11 その他()

回答肢	公 共		大 学	
	別置	記号なし	別置	記号なし
1	1842	166	347	473
2	556	425	174	455
3	788	439	113	85
4	778	246	3	26
5	496	215	3	120
6	1459	231	204	364
7	509	288	144	352
8	1115	352	16	39
9	1420		97	
10	2170		250	
11	1213		486	

使用している別置記号

レファレンスブック：R 他 大型本：L 他 児童書：J, K 他 ヤングアダルト図書：Y, YA 他 漫画・コミック：M 他 文庫本：B 他 新書：S, SI 他 点字本：T 他 大活字本：D, Da, L 他

【4】件名標目について

(1) 新規受入の一般図書に件名標目を付与しているか

- 1 付与している 2 付与していない

回答肢	公 共		大 学	
1	1507	61.6%	394	30.1%
2	940	38.4%	913	69.9%

(2) 使用している件名標目表

*和書・洋書の区分を設けていない館は、和書の部分で回答

1 和書

- a BSH 4 版 b BSH 3 版 c NDLISH
d その他 ()

回答肢	公 共		大 学	
a	1243	82.5%	257	65.2%
b	138	9.2%	30	7.6%
c	312	20.7%	189	48.0%
d	80	5.3%	29	7.4%

d (その他)：LCSH, MeSH, 民間 MARC, NACSIS 等

2 洋書

- a BSH 4 版 b BSH 3 版 c NDLISH
d その他 ()

回答肢	公 共		大 学	
a	63	75.9%	43	22.6%
b	5	6.0%	6	3.2%
c	5	6.0%	34	17.9%
d	15	18.1%	127	66.8%

d (その他)：LCSH, MeSH, NACSIS 等

【5】利用者に対し OPAC を提供しているか

- 1 館内・外ともに提供
2 館内でのみ提供
3 提供していない

回答肢	公 共		大 学	
1	1903	76.5%	1056	80.1%
2	353	14.2%	180	13.7%
3	232	9.3%	82	6.2%

【6】OPAC で分類記号・件名標目は、検索対象として索引化されているか (分類や件名からの検索は可能か)

(1) 分類記号

- 1 されている (可能) 2 されていない (不可能)

回答肢	公 共		大 学	
1	1622	73.3%	1131	92.2%
2	591	26.7%	96	7.8%

(2) 件名標目

- 1 されている (可能) 2 されていない (不可能)

回答肢	公 共		大 学	
1	1604	74.8%	964	82.8%
2	541	25.2%	200	17.2%

【NDC に対する意見】 (自由記入)

分類表の改訂, 形態, 分類記号, 補助表, 相関索引など (公共43館, 大学73館)

調査回答について

- ・調査対象図書は、基本的に一般図書に限定し、別置記号の設問以外では、児童書や地域行政資料等(郷土資料も含まれる)は除外して回答を求めたが、児童書や郷土資料等を含めて回答した館が多数あった。
- ・【3】、【3-1】、【4】(2)の設問では和書と洋書で同じ分類表、件名標目表等を使用している館で、洋書の回答を記入した館と記入しなかった館に分かれた。
- ・【3】と【4】(2)の設問では、「複数回答可」の指示がなかったが、複数回答した館が多数あった。

(文責・大曲俊雄[※]：JLA 分類委員会委員)
[NDC 9：014.4 BSH：資料分類法]